

掘り出しもの

井伏鱒二著

掘り出しもの

—掘り出しもの—

昭和二十五年九月一日 初版印刷
昭和二十五年九月十日 初版發行

定價 一五〇圓
地方賣價 一五五圓

著者 井 伏 鱒 二

發行者 東京都中央區日本橋小舟町二ノ四
矢 部 良 策

印刷者 東京都港區芝新橋六ノ三二
植 田 吉 晴

東京都中央區日本橋小舟町二ノ四
(大阪市北區堀上町四五)

發行所 株式會社 創 元 社

電話茅場町(66)二〇〇・四番
振替東京一五六五番

序に代へて

縄なひ機

故郷の木下夕爾君の詩「東京行」を
読んで故郷の近江卓爾君に――

君が縄なひ機を買つたことは

おとしの君の手紙で知つた

君の操縦する縄なひ機は

夜汽車の走るやうな音を出し

君を旅に誘ひ出さうとする

そのことは去年の君の手紙で知つた

なぜ縄なひを始めたのだらう

僕は不思議なことと思つてゐた

けふ木下君のよこした詩を讀んで

漸く君の意中を量り得た

君は東京見物に來たがつてゐる

旅費を稼がうとして繩をなふが

旅費がたまりかけると汽車賃があがる

「繩なひ機械を踏む速度では

とても物價に追いつけない……

なひあげた繩の長さは

北海道にも達するだらう……」

木下君はさういふ風に書いてゐる

僕は近く田舎に出かけるので

君の繩なひ機も見て來たい

汽車のやうな音がするのでは

紅殻塗りの舊式ではないだらうか

ともかく眼福の榮にあづかりたい

掘り出しもの

目

次

序に代へて（繩なひ）

一

雨河内川

九

不漁雜記

四

カイホウジ

二七

點滴

三〇

鶯の巢

三七

掘り出しもの

五七

蒐集品

五五

天沼の米屋

六八

ババイア

七〇

いやな思ひ出

八〇

郁達夫

九四

森鷗外に關する挿話

一〇九

中村武羅夫さんのこと

一二四

阿佐ヶ谷時代の横光氏のこと

一二八

田中英光氏の印象

一三三

をんなごころ

一三七

惜別

一四九

羽織

一五三

迂濶な話

一五七

仲人

一六二

掘り出しもの

雨河内川

今度また私は雨河内川へ行つて來た。先月、瀧井さんや龜井君と行き、すぐにまた出かけるのは、馬鹿の一つ覚えのやうな氣がしなくてもなかつた。しかし慾を制することが出來なかつたのだから致しかたない。

雨河内川は下部川の支流で、下部川は富士川の支流である。富士川の末梢の一つといふわけだが、割合どつしりとした大岩がいつばい川のなかにころがり出て、飛び飛びではあるが淵も相當なものがある。道順は、甲府から富士身延線に乗つて下部驛に下車。そこから下部川沿ひに約三丁ほど川かみに行くと、右岸の製材所のところに支川が流れこんでゐる。これが雨河内川である。

私は汽車の乗換への都合で甲府の町を散歩した。本屋に寄ると、五月號の「文學界」が目についたので、ちよつとの間の立ち讀みで座談會の筆記を見た。「娛樂と道樂」といふ見出しの座談

會記事である。この座談會には私も出席してゐるが、出席者に校正を見せないうちに印刷にまはしたといふことをきいてゐた。原稿の締切りの都合によつて、校正刷りを出席者にまはす時間がなかつたさうである。立ち讀みのせゐか、讀んでみて何の感興もなかつたが、「釣談義」といふ章の半ばに及んで私は頁を閉ぢた。氣にくはない筆記になつてゐた。（いま私はその部分を、「文學界」五月號一一〇頁から抜萃する。）

久米 釣りは獨りで愉しいの？ 多少は見てくれがあるの？

井伏 溪流の釣りは獨りのはうがいいですね。荒らされるから……。

久米 俺がこれを釣つたんだといふ誇らしさみたいなものはあるの？ それとも無心なの？

井伏 釣つてゐる時は無心ですね。

河盛 歸つてからの自慢が大變なんですよ。

（中略）

今 しかし、のんきに絲を垂れてゐるやうに見えるけど、心の中は決してのんきちやないんだね。

（註 私は「無心ですよ」なんて云つた覚えはないが、そこまではまだしもいいとして、次が面白

くない。

井伏 魚との闘ひですよ。山女魚^{ヤマメ}なんかになると、掛つた瞬間に引いたらダメなんです。引くのも川しもへゆかないと、振る習性があるし、上へやれば下へ入るし……。ほんとに闘つてゐますよ。

私は甲府驛から富士身延電車に乗つた。車中、どうも氣にくはなかつた。自分は一個の溪流の釣師として、まだ一人前であらうとは思はない。しかし何の道樂にも仲間といふものがあるのは同様に、私にも釣りの仲間が諸所方々にゐる。その人たちが、もしあの速記を讀んだら何と思ふだらう。私は顔が赤くなるのを覺えた。「魚との闘ひですよ。」と大きく出て「山女魚なんかになると、掛つた瞬間に引いたらダメなんです。」と云つたことになつてゐる。どんな魚でも、掛つた瞬間に、うつちやつておく法はないだらう。進んで合せる場合が多いのである。鮎の友釣りのときは別として、川釣りのとき、「掛つた瞬間」とは合せた瞬間のことである。ことに山女魚などの場合、季節によつては、間髪を入れず空合せの呼吸で早合せをすることもある。私は座談會で自分の云つたことを、うる覚えながらまだ覺えてゐる。かう云つたやうに覺えてゐる。「山女魚なんかは難しいです。習性を知る必要があります。大體、場所と季節によつて、釣りかたに手

加減がありますが、例へばまだ瀬にひそんでゐる雪代山女魚ユキしろヤマメを釣るときには、もし穂先きの柔らかい竿なら充分に送り込んでから合せるのも一方法です。無論、途端に合せる方が勝負が早いですが、初心のうちは、ゆつくり送り込むのが安全です。しかし、山女魚は鉤にかかると、川かみに向かつて逃げようとする習性があります。同時に、頭を左右に振る習性があります。それで川かみに引きあげると、顎のない鉤だから抜け落ちるおそれがある。ことに堅い穂先きの竿では、必ず落ちるものと思はなくてはいいけない。それから、直上に引き抜かうとすると、川底にもぐらうとする習性がありますから、大ものときには、川しもに引き寄せることが肝要です。釣つてゐる當人は、無心ではなくて夢中です。私は大體、さう云つたやうに覺えてゐる。それが私の早口だから、速記できなかつたのかもわからない。

電車が久奈土驛にとまつたとき、故障か何かで暫く停車した。驛の裏の山裾に山吹が咲いてゐた。もう青葉山女魚である。いつか私は久奈土川の川かみへ釣りに行つたことがある。その土地には知つた人が一人もない。すでに「釣談義」で、無茶を云ふ釣天狗とされた以上、私は誰も知らない久奈土でこつそり釣つてみようかと考へた。

「だが、迷つてはいけないのだ。新緑に埋まつた雨河内川が、招いてゐる。山は招く、川は招くのだ。」

私は自分で元氣をつけた。帽子をまぶかにかぶつた氣で、或ひは頬かむりをした氣持で所期の川まで行くことにした。それにしても「掛つた瞬間に引いたらダメなんです。」とは、あまりにもひどい云ひぐさである。沙魚でさへも、合せたら引きあげなくてはいけない。山女魚は力持ちで極めて臆病である。ことに青葉山女魚になると、春さきから釣師たちに攻められて一層に物怖ぢするやうになつてゐる。もはや淵から出て、淺瀬に流れる蟲をねらつてゐるが、人間の足音や竿のかげに敏感になつてゐる。もうこのごろでは、川のなかの蟲や蛾など腹いっぱいに食べてゐて、餌に對して贅澤に選り好みをするやうになつてゐる。好きな餌でも、いいかげんに鉤に差しておいたのでは當りがない。雪代山女魚の頃のやうに無造作なチョン掛けでは駄目である。スズコなら、鉤がすつかりかくれるやうに數珠さしにして、十粒ぐらゐづつ口に含んで淵に向かつて吹きつけて、撒餌をして釣る必要がある。川蟲なら頭からさして、その頭を鉤素のつけ根まで送つておく。ミミズなら胴からさして、やはり鉤素が幾らかでもかくれるほど深くさしておくのがいい。山女魚は、もし怪しい餌だと知つたら瞬間に吐き出すからである。だから魚の當りも極めて微かなところで勝負がきまる。糸ふけ、または目じるしの、些細の變化でも合せるのである。もし餌を底深く流してゐる場合には、糸ふけ、または目じるしの停滯で、瞬間に合せる。淺く流してゐる場合には、糸ふけと同時に竿さきに締めこんで行くやうな微かな手應えがあるが、こち

らの氣がせくなら矢庭に合せてもいい。手應えを束の間でも楽しむつもりなら、ちよつと送り込んでから合せるのもいい。合せたら竿を斜めにひねつて、川しにも抜いて行く。もし一尺以上の大ものが掛かつたら、私の竿の穂先きは普通以上に細くて折れるかもしれないので、手もとの狂はないやうに息をひそめて靜かに引きよせる必要がある。でかい一尺二寸の場合なら、竿の半分からさきを流れのなかにつけ、魚の馬鹿ぢからが弱るのを待つて穂先きを取られないやうにする。水の流れは、竿の水につかつてゐる部分を、まんべんなく川しにも押しやつてくれることになる。その際、流れのなかに邪魔になる岩などなければ幸ひである。あばれまはる山女魚は次第に疲れて來て、へちに寄つて一といき息を入れようとする。目をまはして、ふらふらになつてゐる。私は魚をびつくりさせないやうに、抜きあし差しあしで川にはひつて行き、えいとばかりに、兩手で山女魚を岸に投げあげる。たも網を持たないので、さうするよりほかはない。山女魚は跳ねまはる。まるで人間の足音のやうに、重々しい音でもつて草の上を跳ねてゐる。斑點のあつた銀色の胴體。こいつは尾籠に入れてもまだ跳ねてゐる。私の胸は、ゴットン・ゴットン……動悸を打つ。次の餌を鉤にさすにも、興奮のために手が震へてゐる。だから岩に兩肘を托しかけて餌をさす。今度は、どこに振りこまうかと、私は川を睨みまはしながら場所を物色する。淺瀬の岩かげも悪くなささうである。瀬の兩脇も悪くなささうである。淵の巻込みのあたりも悪くなさ